

炎症から収束まで：炎症性腸疾患病態解明を 目指したシステム医学的アプローチ

Systems medicine in inflammatory bowel disease

日時：2023年11月30日(木)

17:30～19:00

会場：福利厚生施設 ホールA

*Zoom ミーティングIDは各分野に通知します

三上 洋平先生

Yohei Mikami, M.D., Ph.D.

慶應義塾大学医学部内科学(消化器)

准教授



炎症性腸疾患(IBD)は、いまだ原因が不明で根治療法のない慢性炎症性疾患であり、病態に基づく治療法の確立は喫緊の課題とされています。近年IBD領域において臨床応用されている多くの分子標的療法は主に免疫細胞を標的にしていると考えられていますが、腸管という常に外界と接する特殊な環境では、食事抗原や腸内微生物をはじめとした環境因子に暴露された多様な免疫細胞、上皮細胞、間葉系細胞、神経細胞が相互作用する複雑系がIBD病態に寄与していると考えられます。この複雑な細胞間・細胞内ネットワークの解析は、近年の次世代シーケンサーの進歩により飛躍的に発展しました。今回、網羅的な遺伝子発現解析やエピゲノム解析を用いた免疫細胞および非免疫細胞の解析を通じて、腸管の定常状態と炎症・収束過程について皆様と議論させていただければ幸いです。

1. Mikami Y, ..., O'Shea JJ. MicroRNA-221 and -222 modulate intestinal inflammatory Th17 cell response as negative feedback regulators downstream of interleukin-23. *Immunity*. 2021 Mar 9;54(3):514-525.e6.
2. Teratani T, Mikami Y[†], ..., Kanai T[†]. The liver-brain-gut neural arc maintains the Treg cell niche in the gut. *Nature*. 2020 Sep;585(7826):591-596. (†: Corresponding author)
3. Mikami Y, ..., Sciumè G. NCR+ ILC3 maintain larger STAT4 reservoir via T-BET to regulate type 1 features upon IL-23 stimulation in mice. *Eur J Immunol*. 2018 Jul;48(7):1174-1180.
4. Shih HY*, Sciumè G*, Mikami Y*, ..., O'Shea JJ. Developmental Acquisition of Regulomes Underlies Innate Lymphoid Cell Functionality. *Cell*. 2016 May 19;165(5):1120-33. (Shared first author)

【コーディネーター】感染制御学分野 教授 勝二 郁夫

【主催】神戸大学メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

【連絡先】研究支援課研究企画係 羽子田／天羽 (内線: 5195/5198)